会報

一九九六年(平成八)度の大分県地方史研究会大会・総会は、五月十九日(日)午前一〇時から大分県立図書館第二・第三研修室を会場に開催された。豊田寛三委員(大分大学)を総合司会に、例年どおり午前中に会員研究発表、午後は総会・公開講演が行われ、午後三時半に閉会した。参加者約五〇名。以下概要について報告する。

(一) 会員研究発表(一〇…〇〇～一二…〇〇)

坪根伸也(大分市教育委員会)
「大分市羽屋羽田遺跡の発掘調査について」

木村幾多郎(大分市歴史資料館)
「豊後府内城絵図をめぐって
―慶長十年付箋府内城絵図の製作年代―」

玉永光洋(大分県教育委員会)
「大分県中世城館の調査について」

上杉ひろみ(日出町)
「近世農民と家― 幕府領直入郡を中心に ―」

最近話題となった発掘調査の報告をはじめ、緻密な史料分析を通じての発表など興味深い内容であった。ところで、例年大会前に事務局が苦労する問題の一つに"研究発表者捜し"がある。希望者が少なく(一名の申し出も無い年もある)、委員を介して頼み込むことも再三である。研究発表といえば何か難しいことと考えてしまうのかもしれないが、決してそういうものではない。会員諸氏の日ごろ疑問に思っている点、新しく見つけだした史料の紹介等、気軽に発表してもらいたいものである。

(二) 総会(一三…〇〇～一三…四〇)

座長に川野孝慶氏(三重町)を選出。渡辺澄夫会長のあいさつに引き続き、第一四回大分県地方史研究奨励賞受賞者の発表及び表彰式があった。今回の受賞者は会誌一六〇号に「壬午軍乱と対アジア観―紫溟会を中心にして―」を発表した長野浩典氏(大分東明高校教諭)で、小泊立矢委員(県先哲史料館)からその選考理由として、昨年度発表された論稿は力作揃いであったが、長野氏の論考は大分県とも関係のある紫溟会の対アジア観を壬午軍乱前後を中心に追求し、我々が今もなおもつアジア意識に警鐘をならす意欲作であるという点、さらには県内では若手研究者の少ない近現代史分野でしかも

多忙な高校現場の中で、この論稿以外にも着実な研究成果を上げている点なども考慮されたことなどが説明された。

議事は、左記の四件である。

一、一九九五年(平成七年)度の事業・会計報告とその承認

一、役員改選

一、一九九六年(平成八年)度の事業計画について

一、一九九六年(平成八年)度の会計予算案について

一号議案について事務局から説明があり、全会一致で承認された。現在の会員数は三四〇名で、前年度より六名減少。ついで赤峯重信監事から、会運営は適正に行われている旨の監査報告が行われた。

第二号は本年度が役員改選の年度に当たるため、改選案を事務局が提出。特に、今年度から会運営をスムーズに行っていくために、参事を廃止し委員の中に総務担当者二名・編集担当者二名・研修担当者一名をおくことを説明し承認を得た。新役員は次のとおり。

会　長　渡辺澄夫

顧　問　高山虔三、H＝チースリク、秋月睦男

参　与　芦刈政治、勝目忍、後藤重巳、染矢多喜男、西別府元日、中野幡能、橋本操六、末広利人(新)

委員長　豊田寛三

委　員　飯沼賢司、小玉洋美、後藤正二、後藤宗俊、小泊立矢、佐藤満洋、渋谷忠章、秦政博、野田秋生、安田晃子、吉田豊治、田中裕介(新)、三重野誠

総務担当　小泊立矢、安田晃子

編集担当　後藤正二、佐藤満洋

研修担当　三重野誠

監　事　赤峯重信、吉良洋一

ついで第三・第四号議案について事務局の説明があり、承認を得た。

本年度の会誌発行は、例年どおり四冊四号を左記の予定で発刊する。

一六二号(九六年　七月刊行)　編集　野田

一六三号(九六年一〇月刊行)　編集　秦

一六四号(九六年一二月刊行)　編集　吉田

一六五号(九六年　三月刊行)　編集　飯沼

研究活動については、会の活性化を図るため、時代別の研

究会はこれまで古代・中世史研究会(毎月第二土曜日)、近世史研究会(毎月第三土曜日)、近・現代史研究会(毎月第一土曜日)と各部会ごとに開催されていたものを発展的に統合して一つの月例研究会とし、各研究会を輪番で三カ月に一回開催することとした。研究会には原則として毎月第二土曜日をあてることにしたが、今年度の予定は八三ページ「案内」の通りである。

研究会は本会の主要な活動であるので、会員の積極的な研究発表や参加が望まれる。また各委員の研究発表もできるだけ依頼することとした。問い合わせなどは三重野誠委員(県立先哲史料館)までお願いしたい。なお中世文書研究会(事務局森猛氏〈別府大学〉)は、毎月土曜日に大分市コンパルホールにてこれまでと同じ形で開催される。

そのほか出席会員から、最近の史跡の復元に関して大分県地方史研究会として方向性を示してはどうかという要望が出されたが、今後の検討課題とすることとなった。

(三) 公開講演(一三・五〇―一五・三〇)

本会会長渡辺澄夫氏が、「『豊後国荘園公領史料集成』の完結にあたって―今後の課題と問題点―」のテーマで講演された。

この史料集成は全巻渡辺氏の編集によるもので、昭和五九年一二月刊行の「豊後国田染荘・田原別符史料」を第一巻とし、平成七年九月刊行の「豊後国日田荘・宇佐宮領五箇村付得善名・大肥荘・津江荘・総合補遺史料」まで八巻一二冊というもので現時点における豊後国関係史料を網羅したものである。さらに現在索引・続々補遺の刊行を準備中という。その発刊により本集成が完結ということになる。そのことはまた本県の歴史研究が飛躍的な発展を遂げることになるはずである。

講演は、編集の問題点・掲載史料の再検討と活用についてふれられ、具体例として国領豊後国柴山村について詳細な解説があった。聴衆に深い感銘を与えた一〇〇分間であった。

(小泊立矢)